

昨年10月、日本で初めて道路交通安全マネジメントの国際規格ISO39001の認証を受けた名正運輸（加藤新一社長、愛知県飛島村）は、PDCA（計画―実行―評価―改善）サイクルのチェック項目や確認作業の記録を取ることで、社内での安全意識を一層向上させている。

3か月に1回の全社安全衛生委員会では、これまで研修色の強かった取り組みを、昨年からは各営業所の労働災害防止策や改善活動を事例発表して水平展開する

内容へと改めた。ISO管理責任者の山口嘉公部長は「問題点を洗い出し、改善策を提案する労働防止版のQC（品質管理）活動とすることが目標。管理者もみんなの前で発表すること

で、自身が教育を受ける場となる」と話す。7月末に行った会議では、愛知と静岡の5営業所が、荷受けスペースの効率化や、トラックやフォークリフトを安全に運用するた

## PDCAで安全意識向上

め、左折時の一時停止を重要項目としてチェック。月1回の反省会で各ドライバーの走行実態を営業所にフィードバックする。これに加え、社内事故の半数を占めるバック時の事故

流品質も高めていく。労災と合わせて力を入れるのが、交通事故防止への取り組みだ。同社がドライバー教育の切り札とする自社トラックの追走指導では、特に車間距離、確実な

## 労災防止QC活動を推進

社に通達し、早期の実施率100%を目指す。

加藤社長は「我々は、と



コーダーなどの機器は最新機材を装着しており、後はドライバーの意識付けをどう磨くかの問題だ。安全について自分がどう思うかではなく、「相手が怖いと思う運転は安全ではない」という考え方を浸透させた」と言い切る。

にかく死亡事故を撲滅することが一番の使命。デジタルタコグラフやドライブレ

「物流は荷物を運べばいい」という時代は過去の話。品質は物流の一部と捉える荷主が増える中、自社の安全を高めることは、対外的に大きな価値を持つ」と、加藤氏自ら追走指導の陣頭に立つ。（梅本 誠治）